

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	全体的に一体的なケアになりがちで一人ひとりへのケアが不十分である。基本的な寄り添いは出来ているが偏りが見られたりその人の抱えている悩みを解決しようとチーム内で話し合う必要性を感じる。	毎日不安感を訴えたり帰宅願望を願う方に寄り添い、不安解消や帰宅が叶う方法、またそれに替わる対応ができ安心して入所生活を過ごすことができる。	一人ひとりのそれまでの暮らしを知るために情報収集する。本人から、またご家族から聞き取り今の思いや意向を汲み取り、悩みや不安があったときは寄り添えるように努める。	12ヶ月
2	26	介護計画が家族や作者の意向が強く反映されており本人の意向の反映が薄いように感じる。本人への聞き取り、そのために職員との話しやすい関係を築けるようにする。	本人のしたい事や希望することが話しやすい環境作りができる。またご家族と職員のコミュニケーションが図れる機会を作る。	家族会の立ち上げの準備をする。担当者を決め密に本人と職員が話せる時間の確保ができるようユニットごとに検討する。	6ヶ月
3	36	基本的には一人ひとりの声掛けなど尊重した対応が出来ているが、近き関係性の思い込みや急ぐあまり馴れ馴れしい言動も見られる。そのため萎縮し自由に生活しづらい環境になっているのでは?と考える場面もある。	年長者に対するの尊敬の念を忘れず基本は敬語で接し、寄り添う場面ではお互いの関係性が十分にでき不自由なく生活ができる。	一人ひとりの関係性を職員一人ひとりが再確認する。萎縮することなくその人らしくいられるよう対話し傾聴する。	12ヶ月
4	4	現在は身体拘束に当たる行為は見られないが、必要性を感じはじめる場面は時折見られる。スタッフ間で話し合い代替性を考え実施している。	身体拘束をしないケアに努める。	スタッフ間ユニット間で連携を図り身体拘束しないケアをこれからも継続する。	3ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。